

学校名 行田市立桜ヶ丘小学校
所在地 行田市長野1880
電話 048-554-0681

1 本校の概要

本校は、昭和57年に創設され、今年で38年目を迎える。児童数227名の中規模校である。「自分の思いや考えを伝え合うことができる児童」の育成を目指し、国語科を中心に研究を進めている。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・ 読書に親しむ態度や読書習慣に係る取組

(2) 実践の概要

① 読書活動の充実

ア 朝の読書タイム・読み聞かせ

毎週月曜日の20分間を読書タイムとし、全校で取り組んでいる。年11回、保護者を中心とした図書ボランティアの読み聞かせも実施している。学年の実態や季節に合った本を選定していただき、児童も集中して読み聞かせを聞いている。



イ 読書の木

読解力の向上を目指し、児童の読書活動が充実するよう「さくらっ子読書の木」の取組を行った。低・中・高学年で目標冊数を設定し、本を読み終えたら、葉っぱの形をした紙に作者や面白かったところ、おすすめするところなどを記入し、読書の木に貼った。目標冊数を達成するごとに読書賞を配布し、意欲の向上を図った。また、学期ごとにクラスで一番本を読んだ児童には、読書チャンピオン賞を配布した。



ウ 並行読書コーナー

各学年の廊下に並行読書コーナーを設置した。国語の授業に関連した本を並べることで、児童は興味をもって読んでいた。



エ お薦めの本のコーナー

廊下に、先生方がお薦めする本の紹介コーナーを設置した。



オ その他

- ・ 課題図書を各学級に配布し、必読書として全員が読めるように工夫した。

- ・ 図書室の本の配架において、国語の教科書に紹介されている本を学年ごとに分かりやすく配架したり、ことわざや熟語の本を入り口の近くに配架したりすることで、利用しやすくなった。

② 家庭や地域との連携

ア 図書ボランティアの協力

読み聞かせだけでなく、図書室の掲示を工夫し、季節感あふれる明るく楽しい図書室にしている。7月と12月には、低学年にブックトークを実施し、児童は、今まで知らなかった本との出会いや読書の楽しさを知ることができた。

イ 市立図書館との連携

月1回、移動図書館が来校し、2年生以上の児童が本を借りている。1回の貸出しは、200冊になる。また、2年生は市の図書館司書に図書館の利用の仕方を教えてもらったり、本の読み聞かせをしてもらったりした。1年生は、市のセカンドブック事業で一人1冊自分が選んだ本を贈呈してもらった。

3 成果と今後の課題

読書を進んでする児童が増えてきた。一人一人の読書量に差があったり、名作や古典などのジャンルの本を読む児童が少なかったりするので、全児童の読書の質の向上と読書量を増やしていくことに努める。そして、今後も図書室を利用した学習の充実と計画的な読書活動の推進を図っていく。